

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が、華中～九州～日本の南にほとんど停滞しているが、華北にある浅いトラフの前面の正渦度移流に伴い、東シナ海や九州付近ではゆっくり北上している。前線近傍の対馬近海では対流活動が活発になっており、雷を伴い非常に激しい雨を解析。
- ② 高気圧が、日本の南にほとんど停滞している。
- ③ 高気圧が、千島近海をゆっくり東南東へ移動している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、4日朝には九州北部地方に北上して、その後は6日にかけて西日本や伊豆諸島付近にほとんど停滞する。また、上層の浅いトラフに対応して発生する前線上のキंकが、5日にかけて西日本を通過して伊豆諸島付近に進む。前線に向かう850hPaで相当温位350K以上の下層暖湿気が、1項②の高気圧の縁を大きく回るように、大陸～東シナ海を通過して九州を中心に流れ込む。このため、大気の状態が非常に不安定となって、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。特に、九州北部地方では4日朝から夕方にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では普段より少ない雨でも土砂災害の危険度が高まりやすいことにも留意。九州北部地方では4日は土砂災害に嚴重に警戒し、西日本では6日にかけて、東日本では5～6日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。西～東日本では6日にかけて落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項③の高気圧は、6日にかけて日本のるか東に移動する。北～東日本では、次第に高気圧後面の南よりの風の場合となり、下層暖湿気が北上する。また、5～6日は、上層の浅いトラフが日本海から東日本や北日本に進み、500hPaで-6℃以下の寒気が流れ込む。これらの影響に日中の気温上昇の影響が加わり、大気の状態が不安定となる所がある。東日本では4日と6日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項

- ①の前線や前線上のキंकの位置は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量 (06時からの24時間) : 九州北部150、四国100mm。
- ② 波浪 (明日まで) : 高い所 (3m 以上) はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 全般気象解説情報 (大雨) を5時頃に発表予定。